

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	情報工学実験第二 B		
英文授業科目名	Laboratory in Computer Science IIB		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報工学科		
担当教官名	角田 博保		
居室	西9-435		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>主題： コンピュータ科学、ソフトウェア学、計算科学、計算機応用学に対応した応用的な実習をおこなう。</p> <p>達成目標： 各課題について、的確な問題分析とシステムの設計、実現、評価ができること、明晰な報告書を作成できることを目標とする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>プログラミング通論、計算機通論、論理設計学、複素数学、数値計算第一、情報工学演習第一、情報工学演習第二、情報工学実験第一</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
<p>各課題ごとに資料を配布する。</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

情報工学実験第二Aと一体となって実施する。具体的な日程、実施方法については7月に説明会をおこなう。全実験日程を前半と後半に分け、今年度は前半が情報工学実験第二B,後半が情報工学実験第二Aの予定である。

マルチメディアの実習をともなう非線形現象のシミュレーション、言語処理系の作成、グラフィカルユーザインタフェース、および、プロセッサの実装とそのプロセッサ上のコンパイラの実装、ネットワーク層の実装といった課題から選択的に履修する。

具体的には以下の4つの選択課題から1つを選んで履修する。4つの課題の対応人数はほぼ均等であり、履修課題は希望および情報工学実験第一の成績に基づいて決定する。

詳しくは7月頃 選択方式、各課題の詳細を説明する会を開くので、掲示に注意すること。

4つの課題は以下の通りである。

・JA1課題

3つのサブテーマP,C,Nに分かれて履修する。

P) RISCプロセッサ(MiniIPS)とEthernetコントローラを含むコンピュータを,大規模プログラマブルデバイスを用いて実装する。

C) 言語処理系論の教材のTinyCを拡張して,システムソフトウェアの記述が可能なMiniIPS用のコンパイラを作る。

N) UDP/IPスタック(Tiny IP)をTiny Cを用いてMiniIPS上に実装する。簡単なUDP通信アプリケーションを書き、Linuxと通信する。

担当者 鈴木、楯岡、阿部

・JB1課題 グラフィカルユーザインタフェース

担当者 赤池

・JC1課題 Lisp言語処理系

担当者 大木、粕川

・JD1課題 非線形現象のシミュレーション(マルチメディア課題)

担当者 今村、中村、福原

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席、レポート、面接により判断する。比率は課題ごとに異なる。全課題を平均して60点以上の点数を取ることが合格の最低基準である。ただし、1課題でも0点の課題があれば不合格とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。実験中の時間、あるいは、電子メールを利用して質問すること。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【学生へのメッセージ】

【その他】
鈴木 (西9-703)、楯岡 (西1-305)、阿部 (西1-501)、赤池 (西9-409)、大木 (非常勤講師)、粕川 (非常勤講師)、今村 (西4-507)、中村 (西4-611)、福原 (西9-615)
各担当者の電子メールアドレスはガイダンス時に配布。